

## 第15回 とさ・子ども主体の学校生活づくりを考え会 (通称 りぐる会)

テーマ 豊かに生きよう ～ 今を <sup>あした</sup> 明日を 将来を ～  
報 告

令和元年12月14日(土)に開催されました「第15回りぐる会」の報告をします。

- 1 出席者は25名で、内訳は、特別支援学校関係6名、特別支援学級関係10名、県職員1名、市関係職員1名、教育研究所関係3名、そして事務局・助言者合わせて4名です。
- 2 話題提供の高知市立鴨田小学校の 谷 雄二 さんからは、本年の「全国特殊教育学会」の自主シンポジウムで発表した内容の報告がありました。運動会や校庭の整備、遊び等々生活単元学習の取組と、その中で、地域の生産物である新高梨のジャム作りは高知市の学校給食提供物へと発展したこと。生単の不毛の地を楽園に変えていった経験も語られました。迫り満点で、明日からの力になりました。様々な取組を展開するにあたって、その経費の出どころは？という質問がありました。続いてインタビュー形式の話題提供は、公務員として活躍の会員から、「ここまで歩んできた そして これからも歩み続ける」でした。幼い頃から生きづらさを感じ、学校生活での苦労も多かった。職場では「短いことばで簡潔に」「会話中に脇から声をかけないで」とお願いしている。本会の仲間に伝えたいことは「気長に本人のペースを大切に」「ていねい・親切がベストではない」「その人に適した距離感に配慮し、見守って」「障害のある人に接した経験があるという人は、昔のパターンに引きずられやすい」など。本会の仲間として歩みを共にできれば、と思います。
- 3 明治学院大学准教授 高倉 誠一 さんから、実践障害児教育2月号原稿「実社会・実生活に結びついたテーマのある授業づくり」、学会の自主シンポでの資料「生活単元学習」「作業学習」が提供されました。「全国特殊教育学会での谷さんの話題提供は、その場の雰囲気を変えた」と、谷さんの実践と生活単元学習の魅力を熱く伝えてくださいました。
- 4 遠隔地会員 中坪 晃一さんの「船橋の隠居爺の独り言シリーズ」の第二回。テーマの一つ目は、台風21号で被災した障害者支援施設が、入居者の避難先を探し、土砂の撤去・修復、施設の修繕等復旧への道のりは遠い等報告。なお、会場での募金額は22,810円でした。ご協力に感謝申し上げます。二つ目は「内の常識・外の非常識」でした。「学校の常識は、社会の非常識」と言われているのと同様です。内にいるもの、傲慢になってないか、肝に銘じることですね。
- 5 持参物の披露は、学級の「防災」への主体的な取組みである「かまど単元」、「カフェ」、「遊び」等々。掲示物での紹介や、指導案であったり、学級通信であったり、また1月研修会の案内もあり、お持ち帰りのすてきな資料が満載でした。この普段着の実践紹介は、話題提供とあわせて、後の「お客」でも話題になり、トークも各学校にお持ち帰りになりました。
- 6 事務局より、① 本年度の千葉での全国生活中心教育研究会研究大会は12月21日に開催される。② 次回(第16回)のりぐる会は6～7月上旬を予定。お知らせ2件でした。
- 7 「お客」は、中坪 晃一 さんの乾杯の音頭で、相変わらずの盛り上がり……  
新人自己紹介と写真撮影……酔いしれてすっかり忘れてしまいました。事務局の失態です。

今度忘れちゃったら、言うてよね！あたしらあこじゃんと忘れるきね。



りぐる会 八策

- 一 子ども主体
- 二 続ける
- 三 実践をベースに高め合う
- 四 柔軟な対応
- 五 仲間を増やす
- 六 あせらず
- 七 じわじわと功を求めず
- 八 本音で語ろう

★「りぐる」とは 土佐弁で ① いつもよりがんばる 念入りに ② 筋を通し、軸をぶらさない です。  
文：事務局